和田争議ニュース

1931・7・7
NO. 2
合同労組(?)…
三[?]島川

工場占領で頑張る争議団！
各組合の応援續々来る！

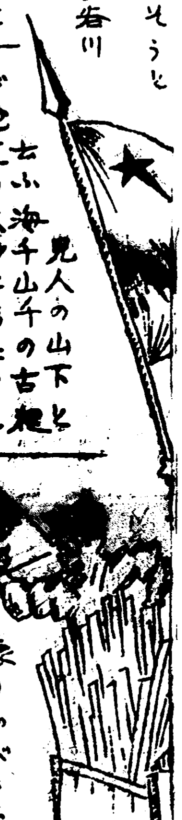
七月四日和田製作所の交渉の決裂と同時に争議に移るや争議団は工場を占領して争議団本部とし、どこまでも頑張る事にした。
工場では初めは多寡をくくってゐたが、俺達の一糸(?)乱れぬ団結の力に狼狽して卑怯にも警察へ急報、警察の力でもって無理に追払はうとした。
俺達は山下がはじめ工場内に頑張る事を許したので断呼として頑張り、
今晩中に引き上げろ」などと云ってもキキメがないので
工場側は事務所に、争議団は工場に対峙のまゝ夜を明した。
翌五日「和田の兄弟一斉」の旗を囲んで、市電、交通労働、其の他から[?]組合が續々とかけつけて

争議団員を激励し、争議団の士気はいやが上にもたかまった。
午後、工場の屋上に組合旗を高々とおっ立てる一方、工場内ではメーデー歌を高唱しつゝ、勇敢にデモを敢行した。「何事ならん」と押し寄せる町民、通行人の整理に、交通巡査まで一時出かけるさわぎだ。争議団の気勢は上る一方、工場主側では、はいゝ気圧的に出たが引込みがつかないでダダダダだ！

この意気で最後まで
あらゆる攻勢に出ろ！
団結の力で戦術と
一つまでの戦へで勝つ！
[illegible]の的な[illegible]！

そこそこの涙金でごまかそうとしたのだ。
俺達はそこで直ちに長谷川君の復職と、並に今後、オヤジの勝手で兄弟達のクビを二束三文で切らぬ事、それではたまらぬから職工一同の勤続年限に相当した退職手当制度を要求した。[illegible]の方では、オヤジの後

が、俺達の交渉にあたった古舵と見人の山下と、山千海千の古ふこいつ、山梨県へ行って関係者一同と相談して来るからと、ぬかして十日以上も回答を引



張りやがった。あげくの果て、七月四日本部の川島、北村と従業員代表が山下の回答

を聞いた所、長谷川君の復職は絶対まかりならぬ。退職手当制度は認めぬ。[illegible]（以上）[illegible]

[illegible]

三八